

授業概要

日本の古典文学の中には、和歌や物語などに見られる上品な優雅な表現とは全く異質の、むしろ卑俗、直裁、単純な表現を特徴とする、説話というジャンルがある、「説話の時代」と呼ばれる、平安時代末期から鎌倉時代にかけて特に数多く御説話集が編纂されるが、それ以外の時代（奈良時代から江戸時代）にも、説話集はいくつも作られている。この授業では、その中の代表的な説話集を時代毎に振り返りつつ、説話と説話集という古典文学のあり方について考えてみることにしたい。

授業計画

第1回	導入 半期の授業計画（説話とは、説話集とは）
第2回	芥川龍之介と説話
第3回	『日本霊異記』の説話
第4回	『今昔物語集』の説話1
第5回	『今昔物語集』の説話2
第6回	『宇治拾遺物語』の説話
第7回	往生伝・法華験記と説話集
第8回	仏教説話集（『宝物集』・『閑居友』・『撰集抄』）
第9回	翻訳説話集について（『唐物語』・『蒙求和歌』）
第10回	『古事談』の説話
第11回	『十訓抄』の説話
第12回	『古今著聞集』の説話
第13回	『徒然草』の説話
第14回	近世の説話集
第15回	総まとめ
第16回	定期試験

到達目標

日本文学史（古典）の大まかな流れを、説話や説話集という文学形態を通して、別の観点から理解してもらうことが、目標である。

履修上の注意

テキストおよび資料についてはプリントを配布する予定である。『日本文学入門』・『日本文学史概論（古典）』はすでに履修していることがのぞましい。

予習復習

授業の中で、参考文献などをできるだけ数多く提示するので、自ら積極的に予習・復習に役立てるという姿勢で臨んでいただきたい。

評価方法

定期試験、出席状況、授業における提出物等により総合的に評価する。出席していれば単位が出るという授業ではないので注意されたい。

テキスト

特に指定しない。授業の中で必要に応じて資料を配付する。